

# 中部大学 2009 年度 FD 活動評価点検報告書

中部大学 FD 活動評価点検委員会

## FD 活動評価点検報告書をまとめるに当たって

中部大学では、2008 年度から全学および学部・学科等における組織的な FD (Faculty Development) 活動について、評価点検を行うこととした。本年度は、昨年度の形式を若干修正の上、昨年度初めて実施した新たな全学における FD 活動の報告を含め、各学部・大学院の FD 活動をまとめている。

本学では、「FD 活動」を本学の FD の概念を教員間で収斂させていくため、内容を 3 つの観点 (表 1) で分類して考えていくことにした。昨年度と同様に『目的別に見た FD 活動』の「カリキュラム改善」や「組織の整備・改革」に関する諸活動は、広義の意味で FD ではあるが、本学における FD 委員会 (後述「1. 中部大学の FD 活動組織について」を参照) の所掌事項でないため、本報告書からは除外した。また、組織単位で行っている諸活動についてのみ、評価点検を行うこととしたため、『対象別に見た FD 活動』の中で「授業担当者」個人が対象となっている活動も除外した点も昨年と同様である。

表 1 3 つの観点でみた中部大学の FD 活動 (網掛け項目は除外した項目を表す)

| 目的別に見た FD 活動         | 対象別に見た FD 活動 | 形式別に見た FD 活動     |
|----------------------|--------------|------------------|
| 1) 授業・教授法の改善         | 1) 全学対象      | 1) 会議・打ち合わせ      |
| 2) 教員の資質向上 (研究交流を含む) | 2) 学部対象      | 2) 懇談会           |
| 3) FD 活動の企画・運営など     | 3) 学科・教室対象   | 3) 講演・報告会・セミナー   |
| カリキュラム改善             | (*1) 非常勤を含む  | 4) ワークショップ       |
| 組織の整備・改革             | (*1) 学生を含む   | 5) 制度・システムなど(*2) |
|                      | 授業担当者        |                  |

(\*1) : 対象別 1)~3) で非常勤を含む場合、学生を含む場合

(\*2) : 例えば、授業評価システムや FD 関連制度の運用、FD 関連システムの構築、および出版などが該当

なお、本報告書をまとめるにあたり、その基礎資料として各学部等において「FD 活動評価点検報告書 (様式 1)」およびその裏付けとなる「FD 活動実績報告書 (様式 2)」を各年度の終了時点で作成することになった。様式 1 では、学部ごとに、1) 今年度の FD 活動組織、目標等、2) 今年度の FD 活動の取り組み、3) FD 活動に関する課題と今後の計画、の 3 項目について学部長、もしくは学部の FD 責任者が総括し、様式 2 では、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組み、および教員の資質向上を目的とした組織的な取り組みに関する諸活動についてその概要を報告することとしている。

## 1. 中部大学の FD 活動組織について

本学における教育活動・改善に向けた教員の資質向上策としての FD 活動は、学長を委員長

とした全学 FD 委員会のもと、各学部 FD 委員会および各学科組織があり、全学体制の FD 活動ワーキングが中心となって種々の検討を行っている。また、教育活動顕彰審査選考委員会や FD 活動評価点検委員会が図 1 のように組織されており、FD 活動の内容について評価できる体制が整っている。なお、全学 FD 委員会及び学部 FD 委員会は、これまで 2007 年度まで本学に設置されていた FD 推進委員会、学部での FD に関する諸活動を 2008 年度より新しく改変した組織である。また、大学教育研究センター（教員 3 名、事務員 3 名で構成）が主管部署として、FD 活動の推進、支援を行っている。

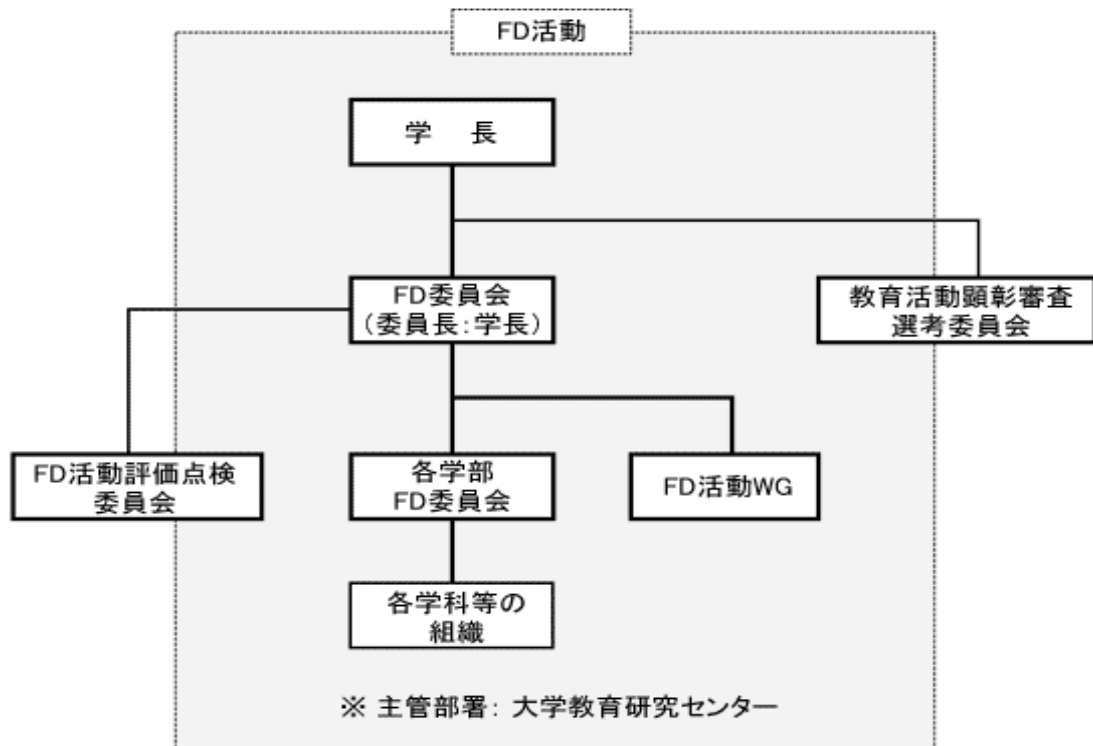


図 1 中部大学の FD 活動組織図

- FD委員会 : 本学の FD 活動全般について、学長を委員長として審議、検討をする。
- FD活動WG : FD 委員会の専門委員会として、学部代表の FD 委員を中心に主に全学的な活動を企画する。
- FD活動評価点検委員会 : 本学の FD 活動全般について、第三者的な立場にたって評価点検をする。
- 教育活動顕彰審査選考委員会 : 教育活動顕彰制度に係る重要事項の審議、および受賞者の審査、選考する。

なお、2009 年度には、FD 活動 WG の下、WG 委員に学内公募で募集した教員を加えて「授業オープン化制度の実質化」と「教員研修制度の構築」を検討する 2 つの分科会を設けた。これらの分科会では、後述する「全学公開授業」「授業サロン」「教員キャリアアッププログラム」の検討、企画、試行実施を行った。

## 2. 2009年度のFD活動の重点目標

本学では現在、FD活動の重点目標として『魅力ある授業づくり』への取り組みが5年間を目安として実施している。2009年度は、2008年度に引き続き、この目標を達成するために継続事業を含めて新たな事業に取り組んだ2年目である。授業は教員だけでなく、受講生一人ひとりの参加が不可欠であり、学生の生の声を聞き、学生とともによりよい授業にしていく努力を全学として続けている。こうした中、教育現場である学部等の組織では、次のような目標を2009年度に掲げ、FD活動が積極的に進められた。

- (1) 組織的なFD活動の実質化－創成科目に役立つグループワークのファシリテーション研修や授業実践の報告会など、授業技術の共有（工学部）
- (2) 初年次教育にかかわる組織的なFD活動－「建学の精神」を学生に効果的に伝える授業方法の開発など、初年次教育のあり方に関する共通認識の醸成（経営情報学部）
- (3) 学生の学習意欲を刺激するためのFD活動－学生の学習意欲を刺激する手法に関する情報と実践的体験の啓発（国際関係学部）
- (4) 研究会ベースのFD活動の推進－学科や分野を超えた授業方法に関するさまざま気づきを得られる機会の創出（人文学部）
- (5) 学生の育成に関する課題の共有によるFD活動の促進－学生の学力、授業態度に関する情報の共有や育成すべき学生像の確認など（応用生物学部）
- (6) 目的別セミナーの開催を通じたFD活動の強化－教員のコミュニケーション力向上を目指したセミナーや看護セミナーなど（生命健康科学部）
- (7) 授業改善、授業支援の具体化に基づいたFD活動－授業コンサルテーションの実施や他大学の情報の共有化など（現代教育学部）
- (8) 授業内容の充実に基づくFD活動（教養教育部）
- (9) 技術者教育プログラムの自己点検・評価と改善に基づくFD活動の展開（工学研究科）
- (10) FD活動の実質化に向けての課題検討（国際人間学研究科）

2008年度と比較しても、2009年度は各組織がFDに関する理解を深め、それぞれの組織が現状に応じたFD活動を進めていることが明らかとなった。その内容から、本学の掲げる『魅力ある授業づくり』が浸透してきていることもうかがえ、今後、各FD活動の目標達成の評価が明確となるような目標設定を含め、更なる発展が期待される。

## 3. 2009年度のFD活動の取り組み

### 3.1 全学の取り組み

2009年度の全学としての取り組みは、大学教育研究センターホームページ（※）に詳細が記されている。主な取り組みとしては、①教員による教育活動重点目標の設定、②授業改善の取り組み、③FDフォーラム・講演会、④FDに関する研修会・説明会等、⑤出版物、⑥教育活動顕彰制度の実施があり、主な点についての現状と評価を記述する。

（※ <http://www.chubu.ac.jp/fd/>）

#### ① 教員による教育活動重点目標の設定

本学のFD活動の一制度として教員個人の教育活動を自己点検することを目的として実施

している。教員（原則として年度当初に在籍している教員全員）は、年度初めに教育活動重点目標を設定し、年度末に自己評価を行い、目標設定時、および自己評価終了時にそれぞれ学部長を經由して学長が承認する。なお、教育活動重点目標・自己評価シートの書式は、基本的な様式は統一するものの従来の全学統一書式（項目）ではなく、学部ごとに設定している。

2009年度の目標設定者は、在籍教員の該当者420人中406人、自己評価提出者は、目標設定者406人中400人であった。

## ② 授業改善の取り組み

『魅力ある授業づくり』のための取り組みとしては、まず、「Web入力方式」による「学生による授業評価」と「教員による授業自己評価」がある。本学の「授業評価」は、学期末に自由記述も含めた「学生による授業評価」と「教員による授業自己評価」を共通設問で実施し、その結果の公表は、数値だけではなく、教員による「学生からの自由記述のまとめ」と「教員からのコメント」を全学生、全教職員に対して公開している。また、「授業改善アンケート」システムを今年度も運用した。「授業改善アンケート」は、授業担当教員が、該当科目の開講学期期間中随時、受講生に対して授業改善を目的としたアンケート（設問、回答選択肢は教員が自由に設定できる、自由記述欄あり）を実施できるシステムである。

2009年度、「Webによる授業評価」の学生の回答率は約18%（2008年度比5%増）、教員の自己評価回答率は約51%（2008年度比1%増）であった。また、自由記述も5,100件と2008年度に比べて約1.5倍に増えた。また、後者の「授業改善アンケート」は通年で220件程の利用があった。これらの取り組みにおいては、2年間の実績を踏まえた状況分析をすることも視野に入れながら、さらなる学生の回答率アップに向けた教員への働きかけや教員の自己回答率、コメント率をさらにアップさせることが望ましい。

授業改善の取り組みの一環として2009年度は、新たに「全学公開授業」を2件試行し、また、5人程度の教員が相互に授業見学を行い、ピアコンサルティングを行う「授業サロン」も試行的に実施した。これらの取り組みは、参加者から概ね好意的な意見が寄せられ、2010年度からは本格実施をすることがFD委員会において承認された。今後、学内の組織的な取り組みとして根付いていくように運営していくことが必要である。

## ③ FDフォーラム・FD講演会

7月には、2008年12月の開催に続く第2弾として『魅力ある授業づくり』に関するFDフォーラムを開催した。また、11月には、外部講師を招いて初年次教育に関するテーマで、3月（2010年）には、学内講師によって発達障がいテーマとしたFD講演会を2回実施した。

## ④ FDに関する研修会・説明会等

新任教員説明会（総務部主管）では、学長、事務局長、大学教育研究センター長から、本学の建学の精神、大学理念、本学のFD活動等が説明された。検討課題でもあった教員向けの研修プログラムとして、2009年度秋学期には主に外部講師を招いて「教員キャリアアッププログラム」を3回試行した。2010年度からの本格的な実施に向けて、より系統だったプログラムの企画が望まれる。

## ⑤ 出版物

「教育・研究活動に関する実態資料」および「中部大学教育研究」を発刊（大学教育研究

センター) しており、前者は様々な基礎データを集約し、学内各種制度や対外的な申請や審査の基礎資料として活用されている。また、後者は、新時代の大学教育の理念・手法・改善策などを論じ合う場を提供し、教育改善・質的向上に役立てることを目的に 2001 年から刊行されており、教員の情報共有の場ともなっており、その研究論稿は教育研究の分野でも数多く引用されている。

#### ⑥ 教育活動顕彰制度

2007 年度まで施行してきた「教育活動・改善表彰制度」に代えて 2008 年度から施行した「教育活動顕彰制度」では、公開された評価項目の総合ポイントが上位にあり、教育活動全般について大いなる貢献が認められ、他の教員の模範となる教員であると総合的に判断された教員に与える「教育活動優秀賞」と、推薦された候補者の中から特筆すべき教育活動を行ったと判断された「教育活動特別賞」の受賞者がそれぞれ決定される。この制度による初めての選考は、2009 年 6 月に 2 回の審査選考委員会（副学長を委員長とした選考委員 16 人）において行われ、教育活動優秀賞 12 人、教育活動特別賞 1 人の教員が選考され、学内の決裁を経た後に、教育活動顕彰授賞式において各賞を授賞した。

この制度においては、選考基準や選考プロセスを Web など広く学内外に公開しており、評価の公正性と透明性を保っている。

### 3.2 学部・研究科での取り組み

2009 年度も昨年に引き続き、学部ごとに FD 活動評価点検報告書が作成されており、ここには提出された報告書から 2009 年度の学部・学科での FD 活動の特記すべき事項を①授業・教授法の改善に関する取り組み、②研究交流を通じた教員の資質向上の取り組み、③FD 活動の企画・運営など、の 3 つの目的別に列挙する。

#### ① 授業・教授法の改善に関する取り組み

- (1) ファシリテーション技術の講演会
- (2) ポートフォリオ導入の検討会
- (3) WEB 社会における授業改善の講演会
- (4) 私語対策に関する議論
- (5) 授業に関する情報交換の議論をメーリングリスト上で実施
- (6) 授業反省会

#### ② 研究交流を通じた教員の資質向上の取り組み

- (1) 教育資質向上のための研究報告会
- (2) 外部機関と実習指導に関するセミナー
- (3) 大学生の価値観とライフスタイルを知る講演会
- (4) 大学院生へのアンケート実施と収集分析

#### ③ FD 活動の企画・運営など

- (1) ネット討論会
- (2) FD 会議や定例学科・教室会議などでの調査報告や企画運営など

今後、これらの取り組みについてその実績や成果を「中部大学教育研究」(3.1⑤出版物を

参照) や学内広報誌に公開されることが望ましい。

#### 4. FD活動に関する課題と今後の計画

全学の課題としては、引き続き『魅力ある授業づくり』を目指して、授業評価の回答率（学生による授業評価回答率、教員による授業自己評価回答率、教員によるコメント率）をアップさせるための取り組みを継続することが必要である。また、減少傾向にある授業改善アンケートの活用に関しては、現状から一歩踏み込んだ授業手法としての利用の検討が期待される。

2009年度から始まった新たな試みも評価できる。授業オープン化制度の実質化の取り組みである「全学公開授業」や「授業サロン」は、教員の教育力向上のための教員参加型の企画として継続的に実施し、学内FDネットワーク構築をさらに促進していく必要がある。また、教員研修制度としての教員キャリアアッププログラムは、講師等の課題を残しながらも参加教員からの同プログラムへの評価は高い。今後もさらに充実したプログラムの実施が期待される。

他方、学部学科レベルでは、それぞれ学部学科の性格や特徴を生かして、『魅力ある授業づくり』における積極的な取り組みを個々の教員に促していくことが必要であると同時に、FD活動における達成目標が、学部学科が育成する学生の人間像とその教育目標に合致するような方向性をさらに目指すことが肝要である。